

「未来高岡」ステップアップトーク（福田地区）会議記録 <要旨>

- 1、日 時 平成 28 年 10 月 4 日（火） 午後 7 時 30 分から 8 時 30 分
- 2、場 所 福田公民館
- 3、出席者 市民 54 名（うち女性 8 名）
高岡市 市長、経営企画部政策監、広報統計課長
- 4、会議次第
 - (1) 高岡市総合計画基本構想の紹介
 - (2) 参加者との意見交換

.....

(1)高岡市総合計画基本構想の紹介

(2)参加者との意見交換

参加者

- ・人口減少が進む中、まちを維持していくためには元気で賑やかな地域にしていく必要がある。高岡市では、市内中心部で開催されるお祭りはPRされているが、それ以外の地区のお祭りはあまりPRされていないように感じる。福田地区には7頭の獅子舞があり、9月に2頭、10月に5頭の獅子舞が行われることから、福田地区の獅子舞についてももっとPRしてほしい。

市長

- ・獅子舞は富山県の財産だと思っている。NHKで年1回「地域伝統芸能祭り」という催しが開催されているが、平成23年度に高岡市から、“にらみ獅子”で知られる「伏木一宮の獅子舞」が出演した。しかし、機会があれば、他の獅子舞の出演にも挑戦したいと思っている。富山県は獅子舞が大変盛んであり、福田地区の周辺においても百以上あると聞いている。市外の方が見物される際の見せ方にはまだ工夫の余地があると思うので、地域の中でも検討していただければと思う。最近では、女の子も参加している地域があり、子どもたちの後継者育成についても力を注いでいただきたい。
- また、毎年5月に高岡駅前で開催している「獅子舞競演会」は、一つの獅子舞だけではなく、複数の獅子舞が舞う大変素晴らしいものである。そのような方法も考慮に入れながら、獅子舞のPRの仕方について地域の皆様とも相談していきたい。獅子舞を地域の財産、地域の文化として高めていきたい。

参加者

- ・公民館は地域住民の“家”のようなものだと考えており、様々な用途で使用されるものである。先日、福田地区の上北島に、市からの助成も受け、素晴らしい自治会公民館が完成した。公民館の建築には多大な費用がかかることから市からの大規模な助成が必要

となるが、今後のことを考えると、公民館のトイレやキッチンの改修なども想定していかなければならない。このような比較的小規模な改修費について助成制度を設けられないか。富山県は、小学校のトイレが全国で一番整備されていると聞いているが、公民館のトイレも、洋式のものを設置していかなければならないのではないか。

市長

- ・市では自治会公民館の改修費用等に対しておおよそ 3 割程度の助成をしているが、自治会公民館は地域で維持するのが基本になっており、各地域で公民館の建設や修繕をしていただいている。自治会公民館のトイレの洋式化については、順番やバランスを考慮しながら地域の希望を聞いていきたい。

参加者

- ・小中学生を対象に先頃実施された全国学力・学習状況調査の結果を見ても、富山県の学生は学ぼうという意欲が高いためか、富山県における地元の高校生の県内での就職率は全国で 40 番目だと聞いている。今年の 9 月 3 日に実施された“高岡市民かがやき一斉乗車の日”では、市民 800 人程が乗車したと聞いているが、新高岡駅の利用促進に力を入れるだけでなく、子どもたちが、将来高岡市に戻って就職したいと思うために、“高岡発”の取り組みだけでなく“高岡着”の観点からの取り組みにも力を入れていく必要があるのではないか。

市長

- ・北陸新幹線の開業によって、首都圏との距離が短く感じられ、地元へ帰ってくる人が増えたのではないかと思う。しかし、新幹線の乗車には費用もかかることから、新幹線開業後 1 年を経過したことで利用の形態も徐々に分かってきており、利用形態に応じた料金の設定ができないかなど引き続き JR に要望していきたい。北陸新幹線には、あまり料金が割安になるような制度がないが、インターネットで切符を購入したり、早めに切符を購入したりすると多少割安になる制度はある。現在、新幹線の利用に関する様々なキャンペーンを実施しており、10 人程のグループで東京へ行くのであれば料金が割安になることもあるので、そのような制度を利用していただければと思う。

参加者

- ・以前、東京で 40 年程教職についていたが、富山県の子どもたちの学力はとても高いと感じる。先頃実施された平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果を見ると、富山県は、小学校の部で全国 4 位、中学校の部で全国 3 位であった。これは、学校教育だけでなく家庭と地域の関係が良いからだと思う。東京と比較すると家庭教育と地域での社会教育が優れている。例えば、富山県では、授業時間が始まると教師はすぐに授業を行うことができるが、東京では、教師はまず生徒をきちんと着席させることから始めなければならない。それだ

けで5分から10分の時間の差が生じる。今後の課題として、学校と地域とが連携を十分にとっていくことが必要である。地域の人々や子どもの保護者たちは頻繁に運動会や授業参観などの学校行事に参加しているが、先生方が、地域での子どもたちの活動を見ていることは非常に少ない。まずは先生方が、地域での子どもたちの活動を見て授業の中で鼓舞激励したり、全校集会で校長先生が激励するなど行ってみてはどうか。そのような連携ができれば、高岡市を含め富山県は全国1位になれると思う。

市長

・教育委員会と相談しながら考察を行い、共通認識をもっていかなければならない。学力の差となって表れる点は、親が子どもたちの生活にきちんと関わりコントロールしていることと、もう一つは子どもたち同士がお互いに助け合っていることにあるのではないか。今でも高岡駅地下街の空きスペースやウイング・ウイング高岡などで一緒に勉強している学生をよく見かけるが、これは、家庭がしっかりしていて、例え親の帰宅が仕事などで遅くなっても、親の子どもたちに対するコントロールが及んでいるからではないかと思う。小中学校や放課後児童育成クラブにしても、地域の方々に子どもたちのことを考えていただいており、通学路での声かけなど、地域が子どもたちに関わる環境が子どもたちに良い影響を与えている。また、校長先生も、地域の様々な行事に関わっており、地域の方々と学校について一緒に議論することも行っている。放課後児童育成クラブについても、以前は学校の校舎内に設置するには学校側が消極的であった面があるが、現在は学校の空き教室も使用できるようになってきており、放課後も学校の中で過ごすという動きが徐々に広がってきている。学校内に設置された放課後児童育成クラブ室に地域の方々が関わっていくということが今後増えてくることを期待している。子どもたちが、24時間どのように過ごせばよいのかということ先生方も把握し、見守り、それを繰り返していくことが大切だと思う。

参加者

・あいの風鉄道の新駅の工事に関する打合せが、今年の4月頃まで頻繁にあったが、最近では全く行われていない。現在の状況を教えてほしい。

市長

・現在のところ順調に進んでおり、実際に工事の段階になれば詳しくお話できると思うのでもう少しお待ちいただきたい。

参加者

・中心市街地の活性化のためにも、健康診断の受診を兼ねて専門医を訪ね、ついでに中心市街地に立ち寄る仕組みをつくったり、高齢者が元気に集まる東京の巣鴨のようなまちを

目指すなど、高齢者をも対象にした活性化策に取り組んでほしい。

市長

- ・まちなかでイベントを行っても一過性となることが多く、人が集まる目的が重要であり、それをつくっていくことが行政の役割でもある。今、その目的の一つとして高岡駅前に看護専門学校を建設している。庄川以西にある高岡市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市の 5 市の中では、高岡市にのみ看護専門学校があり、砺波市や南砺市の城端町から通っている学生もいるとのことである。学校側から、学習環境の効率化の点で要請があったこともあり、今回市内に 3 校あった看護専門学校を 1 校に統合することとなった。これまで 3 校併せて 90 名ほどだった学生数も、新しく設置する看護専門学校では、1 学年 120 名で計 360 名の学生数となる。多くの仲間と共に学習できることとなり、学生たちが高岡駅周辺でいろいろなお店に立ち寄ってくれることも期待している。現在、高岡駅周辺では、ホテルやマンションなども建設されることとなっているが、まちなか居住を推進していく中で、現在建設を進めている看護専門学校のように医療系や福祉系の施設なども将来的に誘致していきたい。